

旧瀬戸邸・北門神社 着物でそぞろ歩きワークショップ開催



稚内北星学園大学 地域観光支援室

はじめに

藤崎達也本学講師（地域観光支援室室長）が監修を行ない「旧瀬戸邸・北門神社を着物でそぞろ歩きワークショップ」を開催した。

これまでの活動経緯と成果

このワークショップは「稚内和服でおもてなし実行委員会（竹内礼法きもの教室 竹内ひとみ M's English 馬上千恵）」の主催により実施され、藤崎講師（観光学）の監修で、稚内を訪れる外国人観光客に対して、和服の試着サービスやツアーなどが、おもてなしの一環としてオプション設定等が可能かどうかを調査する目的で行われた。

昨年度、地域観光支援室の調査の結果、稚内市民が考えている地域の魅力の一つは、戦前から高度成長期を経て外洋漁業の縮小に至るまでの産業興隆の歴史や、それに伴い移り変わる街並であることが見いだされた。大学ではこうした「多層的な歴史」を観光振興に活かすために、まち歩きガイドの育成やマップ作り、情報発信などを観光協会などと共同で進めている。さらに、これらのコンテンツをインバウンドに対応させるため、留学生とのワークショップを開催した。

ワークショップでは、本学留学生が実際に着物に身を包み、旧瀬戸邸などの歴史的建造物を訪れたり、北門神社で行われた「茅の輪くぐり」などを体験したりして日本文化に触れた。市内の写真館の好意により、プロによる写真撮影などを行うことができ、今後写真等をプロモーションツールとして活用すると共に、観光メニューとして取り組む際の課題なども洗い出すことができた。

聞かれた意見としては「和服を着て写真を撮るだけでも充分楽しいので、外国人旅行者にも喜んでもらえそう。」「お祓いや清めなど、日本人独特の考え方については、もう少し詳しい説明がないと分かりにくかった。」などが挙げられる。



はじめての和服に喜ぶ様子



観光パンフレット作りのための素材集め



神社でのプログラムも体験し可能性を探る

今後の展望

今後、当実行委員会の事業スタートアップを引き続きサポートし、稚内の新たな観光コンテンツとして成長することを見守るとともに、COC事業と関わる企業などとのマッチングに務め、稚内地域の観光振興に寄与したいと考える。